

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2019 年 11 月 17 日)〉

■ 審議事項

- I 各種委員会の活動について
- II 第 30 回大会 (京都大学) について
- III 次期大会 (第 31 回琉球大学大会) について
- IV 次期理事及び代表理事選挙について
- V その他

■ 報告事項

- VI 事務局報告
- VII その他

〈第 11 回研究集会のご案内〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2019 年 11 月 17 日)

定例理事会が 11 月 17 日 (日) 10 時から 12 時 30 分まで、お茶の水女子大学文教育学部 1 号館第一会議室にて開催されました。事務局 3 名を含む 25 名 (うち理事 23 名) の参加がありました。

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会 (研究奨励賞審査委員会含む)

安藤委員長より、まず、資料に基づき、『カリキュラム研究』第 29 号の編集の進捗状況が報告された。あわせて、「図書紹介」対象図書の推薦、ならびに、「第 30 回大会報告」「研究集会報告」「秋のセミナー」「海外カリキュラム研究情報」「学会彙報」の原稿提出に関する依頼があった。

続いて、「学会研究奨励賞」について、今年度は推薦がなかったことが報告された。また、「学会研究奨励賞」の推薦について、今年度は推薦がなかったことをふまえて、次年度は理事ならび

に会員に対する推薦依頼と締切日の周知の頻度を増やすことが確認された。加えて、より効果的・効率的に推薦を行うことができるように、担当委員会や推薦のプロセス、締切日等を再検討することが提案された。本件については、次回理事会において改めて審議することと、規程の変更が必要となる場合には総会での審議・承認手続きも必要となることが確認された。

さらに、松下代表理事より、『カリキュラム研究』掲載の論文等の J-STAGE での電子公開とそれに伴う利用許諾の取り扱いについて（公告案）」について、資料に基づき報告ならびに提案があった。資料に示されている「転載」とは、データをそのまま別のサイト等にも掲載する場合を指すのであって、J-STAGE のリンクを貼る場合は「転載」には含まれないことが確認された。また、「(別紙) 日本カリキュラム学会掲載論文等利用許諾基準」の内容について意見交換がなされ、文言を一部加筆修正することとなった。本件については、3月の理事会において最終決定を行う予定であることが確認された。また、本件については国際文献社に委託することとなった。なお、手続きについては、次回理事会での継続審議事項とすることが確認された。

2. 国際交流委員会

近藤委員長より、資料に基づき、「琉球大学大会（2020）での課題研究について」「『カリキュラム研究』第 29 号について」に関する報告ならびに審議事項の提案があった。

大会時の課題研究のテーマについては、他の委員会からの提案内容もふまえて審議した結果、「民主主義と国家（仮）」とすることとなった。

3. 研究委員会

子安委員長より、資料に基づき、「研究委員会の活動」の報告、ならびに、大会での課題研究と研究集会で取り上げる「テーマ案」に関する提案があった。

研究集会のテーマについては、「学習評価指導資料の検討（仮）」とすることとなった。

また、大会時の課題研究のテーマについては、他の委員会からの提案内容もふまえて審議した結果、1つは「学力テスト論の検討（仮）」とすることとなった。もう1つについては、「学習改革論はコンピテンシーを形成するか（仮）」「カリキュラム改革論の再検討（仮）」のいずれか、もしくは両者をセットにしたテーマにすることとなり、今後、委員会内でさらに検討を進めることとなった。

4. 広報・若手育成委員会

村川委員長より、資料に基づき、「課題研究」「秋のセミナー」に関する報告ならびに審議事項の提案があった。

「秋のセミナー」の実施について確認があり、継続することが決定した。

また、大会時の課題研究のテーマについては、第 30 回大会より開始した「先輩に学ぶ」の第 2 弾を行うことが確認された。具体的なテーマについてはメインの登壇者に応じて決定することになるため、今後、候補者への打診を進めつつ決定することが確認された。

II 第30回大会（京都大学）について

1. 大会報告

西岡理事（第30回大会実行委員会委員長を兼任）より、円滑な大会運営への支援に対する御礼が述べられるとともに、資料に基づき報告があった。決算については、現在、国際文献社のチェックを待っている状況であることが報告された。

また、日本カリキュラム学会の大会用通帳の管理者（代表者）を、2019年度大会（京都大学）の次橋秀樹氏（第30回大会実行委員会事務局長補佐）から、2020年度大会（琉球大学）の上地完治理事（第31回大会実行委員会委員長を兼務）へと変更することとなった。

さらに、大会での発表タイトルは申し込み時点のものから変更しないようにすることを周知徹底することの必要性が提案され、承認された。

2. 『教育学研究』大会報告案の確認

西岡理事（第30回大会実行委員会委員長を兼任）と二宮事務局長より、下に示した資料に基づき、提案がなされた。『教育学研究』大会報告案に関する加筆修正意見がある場合には、年内に事務局まで連絡いただくこととなった。

日本カリキュラム学会第30回大会

開催日：2019年6月22日（土）・23日（日）

会場：京都大学

日本カリキュラム学会第30回大会は、2019年6月22～23日に京都大学を会場にして開催された。参加者は396名（基調講演・シンポジウムのみ参加の46名を含む）であった。

自由研究発表では、17分科会が設けられ、63件の発表があった。各分科会3～4件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究では4つのテーマが取り上げられた。課題研究Ⅰは、「実践をつくるカリキュラム・マネジメント」（コーディネーター／司会：吉富芳正・田中統治）をテーマに、長谷博文、石黒和仁、田村知子から提案がなされ、学校現場における教育の質的改善に向けた実践例や支援の在り方が検討された。

課題研究Ⅱは「考えることを考えるー哲学する教育の可能性ー」（コーディネーター／司会：浅沼茂・近藤孝弘）をテーマとし、坂本尚志、渡邊雅子、福井駿より、それぞれフランス・バカロレア哲学試験、国際バカロレア、アメリカのPhilosophy for Childrenの例が紹介された。

課題研究Ⅲでは、「教科横断型学習の具体像と可能性を検討する」（コーディネーター／司会：的場正美・高橋亜希子、指定討論者：澤田稔）をテーマに、富士原紀絵、戸野塚厚子、堀真一郎より、それぞれ日本のカリキュラム実践史、スウェーデンの「共生」のカリキュラム、きのくに子どもの村学園の事例について発表がなされた。

課題研究Ⅳでは、「カリキュラムの『不易と流行』を語るー学習指導要領とカリキュラム研究ー」（コーディネーター／司会：村川雅弘・田村知子）をテーマとした。安彦忠彦より自身のカリキュラム研究と学習指導要領への関わり方についての発表ののち、森久佳、緩利誠から提案があった。

今回の大会では、特別企画として、「カリキュラムを表現するものとしての評価課題 (Assessment Tasks as Curriculum Statements)」をテーマに、オーストラリアの評価研究者であるロイス・サドラーによる基調講演が行われた。続く公開シンポジウムでは「評価を活かしてカリキュラムをデザインする」(コーディネーター/司会：安藤輝次・松下佳代)をテーマとして石井英真、小笠原成章から提案がなされ、指定討論者のサドラーよりコメントがあった。特に高次の思考力を育成するためのカリキュラムや教育目標・評価の議論が深められた。

さらに新たな取り組みとして、会員の発案による自主企画セッションも設けられた。自主企画セッションⅠでは、「変動する世界の大学入試—ヨーロッパを中心に—」(企画者：伊藤実歩子、司会：伊藤実歩子・木村裕)をテーマに、奥村好美、徳永俊太、二宮衆一から提案がなされた。また、自主企画セッションⅡでは、「教育における『エビデンス』を取り巻く論争点—ジョン・ハッティの研究をどう読むか—」(企画者：森本和寿、司会：徳島祐彌、指定討論者：松下佳代)をテーマに、原田信之、山森光陽、森本和寿、石田智敬から提案がなされた。大会を締めくくる時間帯であったにも関わらず、多数の参加があり、充実した議論が行われた。

第30回大会の議論については、機関誌『カリキュラム研究』第29号に掲載される予定である。同誌購入については、学会事務局 (jscs@nifty.com) までお問い合わせいただきたい。

(京都大学：西岡加名恵)

Ⅲ 次期大会 (第31回琉球大学大会) について

まず、上地理事 (第31回大会実行委員長を兼務) より、本日の理事会のオブザーバー参加者である鄭谷心第31回大会実行委員会事務局長の紹介があった。

続いて、上地理事より、資料に基づき、日程と会場に関する準備状況、ならびにシンポジウムのテーマやシンポジスト等に関する報告と提案があった。日程の最終的な決定は大会校の都合により2月になる予定であることが確認された。決定した日程を次号のニューズレター (1月発行予定) において会員に周知することは難しいため、日程については確定次第、学会ウェブサイトと会員メーリングリストにて周知することとなった。

※ その後、日程については、2020年6月27日(土)・28日(日)で確定された。

また、大会校のシンポジウム案と課題研究のテーマに関する要望、ならびに各委員会からのテーマ案をふまえて、シンポジウムと課題研究を、以下のかたちで進めることとなった。詳細については今後検討や打診を進め、次回理事会において提案・確定することとなった。

- ◇ シンポジウム (大会校)：新しい時代の平和教育をめぐるカリキュラム開発 (仮)
- ◇ 課題研究Ⅰ (研究委員会/1日目午前)：「学習改革論はコンピテンシーを形成するか(仮)」
「カリキュラム改革論の再検討 (仮)」のいずれか、もしくは両者をセットにしたテーマ
- ◇ 課題研究Ⅱ (広報・若手育成委員会/1日目午前)：メインの登壇者に応じて決定
- ◇ 課題研究Ⅲ (研究委員会/2日目午後)：学力テスト論の検討 (仮)
- ◇ 課題研究Ⅳ (国際交流委員会/2日目午後)：民主主義と国家 (仮)

それに加えて、自主企画セッションについては、今年度と同様のスケジュールにて開催するかたちで進めることが確認された。

IV 次期理事及び代表理事選挙について

二宮事務局長より、資料に基づき、「理事・代表理事選挙の手続き確認と選挙管理委員の選出」「理事及び代表理事の選挙スケジュール案」についての報告と提案があった。

「日本カリキュラム学会 役員選出規程」の内容について確認すべき情報があることが指摘された。本件については事務局にて確認後、理事会メンバーリングリストにて報告することとなった。

※ 事務局で再度確認したところ、「役員選出規程」の第3条「理事の定員は、日本カリキュラム学会会則第11条」を「理事の定員は、日本カリキュラム学会会則第10条」に変更する必要があることが判明した。

V その他

課題研究等への登壇者の大会参加費については、「学会員の場合は徴収する」「非会員の場合は徴収しない」ことが確認された。

また、長年会員として関わって来られた功労者を対象とする「名誉会員」制度（年会費や大会参加費を徴収しない）の新設の可能性についての提案がなされた。本件については、次回理事会において事務局から提案を行い、審議することとなった。

■報告事項

VI 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、「会員現況報告」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」について、資料に基づき報告があった。

VII その他

松下代表理事より、教育学分野の参照基準（第2次案）についてパブリックコメントの募集中であることが報告されるとともに、意見がある場合には寄せていただきたい旨の依頼があった。

また、次回の理事会については、以下の要領にて開催されることとなった。

日時：2020年3月7日（土）10:00～12:00

会場：お茶の水女子大学

加えて、同日の午後に、研究集会を開催することが確認された。

第 11 回研究集会のご案内

評価と評価活動にどう取り組むか

—観点別評価を中心として—

趣旨：

新学習指導要領の実施が目前に迫り、評価と評価活動を具体化することが求められる状況にある。観点別評価が3観点となるなかで、各観点の捉え直しを各教科等に則して吟味していく必要がある。特に「思考力・判断力・表現力」並びに「学びに向かう力等」に関わって、学校と教師は具体的にどう取り組むか深める必要がある。しかしながら、従来のままの把握や各観点を孤立的に評価するなど、指導要録を含めて現在の評価活動の抱える課題を実践的かつ研究的に検討したい。

1. 開催日時：2020年3月7日（土）13時30分～16時30分（受付13時00分～）

2. 開催場所：お茶の水女子大学・共通講義棟2号館102室（㊸の建物、正門からお入り下さい）

<http://www.ocha.ac.jp/access/ochacampusmap.html>

*入構時にチェックを受けますので、身分証（社員証、免許証、保険証といった本人の名前が確認できるものであれば可）を必ず持参してください。

*追加情報がございました場合には学会ウェブサイト（<http://jcs.b.la9.jp/index.html>）に掲載させていただきますので、ご参加をご検討くださっている皆さまにおかれましては、学会ウェブサイトをチェックくださいますよう、お願い申し上げます。

3. 登壇者

司会

子安 潤 （中部大学教授）

吉富芳正 （明星大学教授）

報告者

遠藤貴広（福井大学准教授）

堀 哲夫（山梨大学名誉教授）

増田 陽（東京都公立小学校教諭）

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告

■会員現況概要（2019年11月5日時点）

会員総数 721名（一般会員632名、学生会員81名、団体会員8件）

※連絡先不明者12名、会員一時資格停止者29名を含む。

【内訳】

新規入会者：16名

退会者：3名

一時資格停止者：29名

連絡先不明者：12名

■会費納入率（2019年10月30日時点）

2019年度：完納548名 未納144名 計692名 79.1%

2018年度：完納622名 未納29名 計651名 95.5%

※連絡先不明者12名含む、会員一時資格停止者29名除く。

2019年度からの新入会者：41名（一般：29名、学生：12名）

2019年4月1日からの新入会者：37名（一般：25名、学生：12名）

■新規入会者（2019年6月8日～2019年10月31日）16名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2019/6/6	成田 昌造	青森中央学院大学	一般会員	事務局
2	2019/6/9	有賀 友美	所属非公開希望	一般会員	倉本哲男
3	2019/6/11	兵藤 清一	愛媛大学	一般会員	事務局
4	2019/6/13	木村 光男	常葉大学	一般会員	安彦忠彦
5	2019/6/17	垣谷 英秋	所属非公開希望	学生会員	倉本哲男
6	2019/6/18	上村 慎吾	所属非公開希望	一般会員	石井英真
7	2019/6/20	島田 信孝	所属非公開希望	一般会員	事務局
8	2019/6/27	川村 悠太	所属非公開希望	一般会員	服部 太
9	2019/7/10	石田 耕一	所属非公開希望	一般会員	事務局
10	2019/7/12	多賀 秀紀	富山大学人間発達科学部	一般会員	事務局
11	2019/7/12	鈴木 和也	所属非公開希望	一般会員	事務局
12	2019/7/25	西野 雄一郎	愛知教育大学	一般会員	中野 真志
13	2019/8/1	西口 啓太	所属非公開希望	一般会員	川地 亜弥子

14	2019/8/2	小原 明恵	東京大学大学院 教育学研究科	学生会員	富田知世
15	2019/9/2	若木 玲子	所属非公開希望	一般会員	田中統治
16	2019/9/21	澤田 俊也	大阪工業大学	一般会員	事務局

■退会者（2019年6月8日～2019年10月31日）3名

	退会日	会員名	所属機関名	会員種別
1	2019/7/23	田中 嘉明	兵庫県川西市立清和台中学校	一般会員
2	2019/9/25	山下 智恵子	香川大学教育学部	一般会員
3	2019/10/28	松下 丈宏	首都大学東京	一般会員

2. 寄贈図書一覧（2019年6月15日～2019年11月10日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
倉本哲男(著)	アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究: サービス・ラーニング (Service-Learning) の視点から	ふくろう出版	2018/7/10	2019/6/17
齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希(著)	教育課程論: カリキュラムマネジメント入門	大学図書出版	2018/3/31	2019/6/17
木村裕・竹川慎哉(編著)	子どもの幸せを実現する学力と学校: オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・韓国・中国の「新たな学力」への対応から考える	学事出版	2019/7/22	2019/7/1
森茂岳雄・川崎誠司・桐谷正信・青木香代子(編著)	社会科における多文化教育: 多様性・社会正義・公正を学ぶ	明石書店	2019/6/20	2019/8/1
Katsutoshi Mizuhara	Japanese Citizens Challenge New Learning under the Fourth Industrial Revolution: "Competency" Oriented Revision of 2017 & 2018	東北大学出版会	2019/2/8	2019/8/1
下司 晶・丸山英樹・青木栄一・濱中淳子・仁平典宏・石井英真・岩下 誠(編著)	教育学年報 11 教育研究の新篇章	世織書房	2019/8/6	2019/9/5

3. 会計途中報告（2019年4月1日～2019年9月30日）

収入の部

項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	4,368,000
入会金	60,000	86,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	31,517
第30回大会収入(除く補助費)	1,200,000	2,069,003
寄付	0	0
前年度繰越金	7,824,129	7,824,129
合計	14,134,129	14,378,649

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第30回大会補助費	1,000,000	1,000,000
第30回大会支出(除く補助費)	1,100,000	1,575,375
第29号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	40,500
学会研究奨励賞費	0	
会合費(交通費他)	1,300,000	34,912
事務局経費	150,000	47,358
事務局外部委託費	1,600,000	1,199,534
ホームページ委託運用費	250,000	64,800
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	592
国際交流委員会	100,000	25,000
研究委員会	300,000	221,417
広報・若手育成委員会	300,000	17,600
(小計)	900,000	264,609
30周年記念事業費	3,000,000	3,008,988
理事・代表選挙経費	350,000	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	3,524,129	7,082,573
合計	14,134,129	14,378,649

4. 令和元年度（2019年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方におかれましては、納入をお願いいたします。2019年10月30日時点での2019年度会費の納入率は79.1%です。納入促進に、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000円、学生 4,000円、団体 10,000円）

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>